

テーマ「子どもと共に何ができるか」

日時：2006年2月26日(日) 10:52~12:50

場所：亀山市立関小学校2年2組教室

参加者：19名

進行担当：倉田、横山

発表者：柏木

発表内容記録者：須川

全体記録：西

交流記録

進行担当より

- ・12月に行われた「人権フェスティバル」の関中学校の発表を聞いて、今日のテーマを選んだ。
- ・実行委員会から全体記録者を決定した。
- ・自己紹介を後ほど行う。
- ・発表者と発表内容の記録者の決定を行う。発表者(柏木)発表内容記録者(須川)
- ・「子どもと共に何ができるか。(以下「テーマ」と記述)」に関わって、「生涯学習」「子どもの居場所」「学校週5日制の活用」の3項目について取り上げる。この項目以外に取り上げる項目があれば意見を出してください。

「生涯学習」に関わって、スポーツ、生きる力について話し合う。

「子どもの居場所」に関わって、全体会での発表にもあったように、いじめる側もいじめられる側についても居場所がないのではないかとすることが取り上げ話し合う。家庭・地域・学校とい中でどのように取り組んでいったらいいのか意見を出し合う。

「学校週5日制の活用」に関わって、体験活動・ボランティア活動などが含まれると考えている。

自己紹介：各自より自己紹介

【 自己紹介終了 11:15頃 】

進行担当

- ・自己紹介を受けて(様々な経験を持っている人が集まった。子育てを終了した人も、子育て真っ最中の方もいる。色々な意見を出し合ってください。)
- ・フリートークを提案する。
- ・ポストイットを使うことを提案。話しやすいのではないかと。ポストイットの配布

進行担当

- ・「不登校」「君が必要だ」と言うような本がある。そのような本が家に多くある。
- ・自分の子どもを育てたときは、仕事を中心であって、子育てに熱心に取り組んでいなかったように思う。(振り返ってみると)厳しく躰をしたように思う。
- ・孫になると、かわいがることこの上なしの状況にある。かなりの落差がある。親の目より、祖父母の眼で見る方が子どもがよく見える。
- ・自転車を乗るときのエピソードを話す。(親の時は、必死になって乗せたが、孫の時は、まあいいかと言っている。)ゆとりか何かよく分からない。
- ・地域の子どもたちに「おはよう」と声を掛けるとき、「おはよう」と挨拶の返ってくる子と無視する子がいる。最近、「おはよう」と地域の人から声を掛けても「知らない人に声を掛けられても返事しちやいけない」とお母さんが言っていた。と言うような話もある。何かがおかしいと思う。
- ・このような中で、子どもと共に何ができるかを話し合っていく。

参加者より

- ・今回、子どもとして唯一参加している谷本さんから大人に対するメッセージを話してもらいたい。
 - ・知らない人に声を掛けられて返事をしてはいけないと、小学校の中学年までは思っていた。小学校の高学年か、中学校の頃になって、地域の人とふれあったり、交流をする中で、変な人は変な人と分かってきた。
- (挨拶に関する抵抗感がありますか。)
- 大人の人への挨拶は、抵抗感がある。返事をするのであれば、自分はOKである。地域の知ったおじいちゃんたちであれば、それはOKである。
- ・最初は子どもたちにどのように声をかけていったらいいのかがわからなかった。
 - ・子どもたちとふれあう場に行く事が多くなることで、子どもたちから声を掛けてくれる。
 - ・自分の小中学校の時代のことを考えると、最初は、近所の人たちとも話すことができなかった。成長する中で、色々な事が分かってきた。自分が幼い頃はそんな感覚がなかった。(悪おじさんなどの感覚がなかった。)
 - ・ビデオをみて感じたことから。小中学校からいじめの問題が多少なりあるのではないか。
 - ・いじめの場合、登校拒否をするなどの現状がある。そのような場面の時に、友達同士がそう言うことをいかんと言う場面が出てくるのでいいが、学校側としても犯罪につながらないようにしっかりと対応をして欲しい。現状の対応のなかにも、いじめがその後の犯罪とつながることが多い。
 - ・色々なとりくみのなかで、いじめがないようにすることが大切な取り組みとなってくるように思う。
 - ・学校関係者の立場から色々な経験をしている中で話をしていくと、決して取り組んでいないわけではない。その背景にある、社会の変化、或いは、家庭・地域を含めたコミュニティの力が落ちている。
 - ・つれあいが民生委員をしているが、小学校に関わる子どもの問題が出てくるが、その子を取り巻くまわりの隣組がどうなっているか。地域社会からのいじめを受けている状況が多い。それは、学校と同じ事のように思う。地域中でどのようにメッセージを受け止めることが大切である。

進行担当

- ・学校がという気持ちもわかるが、地域という大きく含めたものから考える事が大切である。地域のコミュニティの質が落ちてきている。一昔前は、まだ、悪いことをしていたら注意もしてくれたしおやつもくれた等のことが地域にあった。現在、地域によって差が大きくなってきているように感じる。

参加者より

- ・自分たちの子どもの頃には、まわりの人から怒られて大きくなってきた。今は、そのようなことがないものとして、何をしていくか考える必要がある。しゃべったらだめだでは、子どもの力がついていかない。年齢があがって行くに連れて、見極める力を付けていく必要がある。
- ・フェンスの外で子どもがねらわれている現実がある。フェンスだけ高くしても意味がない。防犯ビデオにしても同じ事が言えるのではないか。防犯対策にしても、人の力が最も強いし、その力は残っていると思う。
- ・子どもたちに大人として様々な事を伝えているが、そのことが本当に伝わっていない事が多い。
- ・小学校にきているALTの話によると、アメリカのクリスマスのときに、自分の子どもが作ったものを、食べてと持ってくる。地域の交流がある。交流やお裾分けというような物もあった方がいいと思う。

- ・地域にそのようなことが残っていない場合がおおい。そのような事があればいいと考えますか。
- ・地域で差別をなくそうとする取り組みをしているところでは、おじさんおばあさんの年代から、あらゆる年代のひとがあつまってきて取り組んでいる。(集まって話し合う事が)1つの団結かと思う。関町にはそのような事はない。
- ・自分の地元でも、子どもたちが地域の行事に参加している。そのような取り組みが必要ではないか。
- ・自分の地域での取り組みについていい例を話します。子どもの交流には、「縦の線」が必要だと思う。団地に入ったときに(住み始めたときに)学齢期前の子もいれば、小学校の子もいれば、中学校の子もいるなかで、一斉に団地に入ったので、保護者自身が親しい関係にある。そうなる縦の線がしっかりして、子どもたち、年齢の高い子どもから順番に、下の子に教えていくようになった。
- ・この事は、ソフトボールのチームを作ることによってできるようになってきた。
- ・大人同士の趣味の会も作られて、現在も継続されている。(1970年頃から)親同士のつながりがあって、子どもたちの問題行動に対しても対応できていた。
- ・今は、年を重ねた人が多く住んでいるが、地域の中学校や小学校に関して、下校の見守りをしている。そのような中で、小中学校の児童生徒からお礼の手紙が来ることがある。それらのなかには、人生相談のような内容の手紙もある。その場合、自分の楽しかったことや苦しかったこと等、経験を書いて返事をしている。

進行担当

- ・地域によって温度差がある事も事実である。

参加者より

- ・家庭の力がなくなってきたことも事実としてある。そしてこの先このことが良い方向に変化するかと言えば疑問が残る
- ・小学校、中学校の児童生徒をしっかり育てていかなければならない。
- ・PTAがやっても長続きのしないことがあるが、地域の人が入って取り組んでもらうことで、取り組みが継続的に行われることが多い。生涯学習の場面でも同じ事が言えるのではないか。地域の人をお願いをすることが大切である。
- ・このような交流会を通じて、自分の地元を持ち帰って、家庭にできること、できないこと等を明らかにして、その上で、今の保護者を育てることをして欲しい。
- ・(谷本さんに対して)今の大人いいと思いますか。尊敬できる人はいますが。あのようなことをしていいのかなと思うことはありませんか。
- ・今はないと言うのが事実。
- ・中学校の立場で、地域の人に対してこういう事をして欲しいと言うことがあれば言って欲しい。
- ・小学校に対して色々な取り組みはできるが、中学校の生徒に対して様々な取り組みをするのは難しい。どの様なことに取り組んだら、大人と一緒にできるのか聞かせて欲しい。
- ・小学生と中学生には大きな違いがある。ある意味で大人としての扱いをしていくことが大切である。小学生はある程度のルールを引いてやれば乗ってくる。
- ・自分たちで取り組んでいくパワーを持っている。それを認められる大人であって欲しい。授業においても、子どもと共に作っていくことが大切である。

進行担当

- ・思春期は心が大きく揺れる時期である。穏やかにのびていく生徒もいるし、感情的になっていく子もいる。同級生同士の保護者間では色々とうまくいかない事がある。少し上の方が色々アドバイスをすることでうまくいくのではないかと考えている。

参加者より

- ・日本にきて22年になる。子どもは3人いる。上の2人の子どもは目的や夢を持って生活している。夢を持てるようにしてやりたい。子ども会やPTAの人々で。
- ・中学校でPTAの役員をしていたが、それぞれに忙しく新しい行事を提案しても上手くいかない事もあった。お寺に集まって、花火をしたり遊ぶのも大切なことである。その場合も地域の人の協力が大切である。
- ・お寺では子どもの集まりが悪くなってきている。
- ・習字を習ったりしている。寺の存在も大切なことである。
- ・家庭の事を扱っていくのは難しい事だ。近所の人に頼っていくことも大切である。そのような中から、心が通った子どもたちがたくさん出てきてくれればいいと思う。
- ・(亀山市は)小さい方が小回りがきく。小さくて大変なところはあるが、みんなで力を合わせて色々なものを作っていくことはよいことである。市民交流会も第6回まで続いている。こういう事が新しい市になっても伝わっていき事が大切である。

進行担当

- ・自分が嬉しいと人も嬉しくなる。赤ちゃんも嬉しいと思って育てていくと赤ちゃんも嬉しくなる。楽しいな、嬉しいなと思っっているいろいろやる事が大切である。

参加者より

- ・お盆の時に太鼓踊りを行った。忙しい中であつたが取り組んでみると、子どもたちが生き生きとして取り組んでいた。気持ちの問題が大きいと思う。
- ・色々な話が出てきている。地域に対して学校から回覧が回る。学校に行つて多くの方が児童生徒から顔を覚えられれば、子どもたちにとつても安心感がある。
- ・課題として中学生がうまくいかない、思春期がうまくいかない。中学生のニュースや学校行事が地域の人に伝わつてこない。子ども会においても中学生の参加が少ないように感じる。中学生が自転車で隣を通るが挨拶をする子もいるが、知らない顔をする子もいる。
- ・学校開放を地域の人にも呼びかけている。自分の中学校では、文化祭・体育祭・卒業生を送る会などは公開しているので参加してください。

進行担当

- ・谷本さんたちの作ったビデオのダイジェスト版が良かったので全編見てみたかった。今回のオープニングに持ってきた。「親を育てて欲しい」という意見も出された。ニート等の問題も現状ではある。親が豊かになって、子どもに何でもしてやる事がいけなかったのではないのか。(その親を育てた世代として)自分たちもいけなかったと反省している。ここにきて地域をどのように活性化していくか。

参加者より

- ・地域の大人にいやな感じはしない。しかし、外出したときに常識のない大人を見る。バスの中、電車の中で携帯で電話をかけている人がいる。
- ・(こういう交流会に)参加しなくても、地域においてPTA活動やスポーツ少年団の活動などで子どもたちのために色々やっている大人を見かける。
- ・色々中学生が活動するときに地域の人に手伝ってもらっている。
- ・(自分が小中学校ころ)大人の事はあまりみていなかったように思う。中学生の時は、その年代のことしか見えない。道で近所の人にあつた時にどこで挨拶したらいいのか悩むことがあつた。子どもによって時期が違う。
- ・小学校の方が中学校に比べて授業参観に来る人が多い。子どもの力を借りて親を呼ぶことも必要。(学校)公開日に子どもの発信を入れていく。小学校6年生までの取り組みと、中学校の取り組みでは大きなギャップを感じる。

参観に関する意見が出される。

- ・中学校によっては体育祭・文化祭に多くの保護者が参加見学にきている。
- ・小学校の運動会を見に行ったが、これほどまで多くの人が集まるかと思うほど人がきていた。
- ・学校側から見れば、1学期の参観が一番多い。
- ・子どもが「来ないで」と言ってくる場合がある。
- ・親として参観の必要性を感じていないこともあるのではないか。
- ・参観にきても、おしゃべりをしている人が多い。

進行担当

- ・PTAに参加して、一言しゃべったら次から司会が当たってきた。
- ・孫の幼稚園の参観にいったら、父親は200人中3人、祖父は1人だった。男女共同参画が叫ばれているのであれば、もっと素直な気持ちで会社を休んででも地域の学校の行事に参加することも大切である。

参加者より

- ・中学校から父親の姿が見えなくなってきている。思春期には、必ず父親の出番が来る。
- ・学校だけでは様々なことに取り組むには限界があり、市民活動と連携の必要がある。地域も、コミュニティをどのように創っていくのか発信の必要がある。
- ・祖父母も子どもたちに色々選ばせるのもどうかと思う。親も子どもたちに甘いように思う。我慢することができなくなってきている。日本人としてしっかり育てていく必要がある。

進行担当

- ・教育懇談会が地域で開催されるが、参加が少ないように感じる。自治会からの参加は自分一人であった。積極的なのは、一部の母親だけである。学校からの発信も必要である。これからは、一人でも連れて参加したい。

参加者より

- ・中学生が地域で煙草を吸っていて学校の先生に見回りをして欲しいと言ってくる場合がある。このような場合、昔なら地域の人から叱られた。今は、学校を批判してくる場合が多い。
- ・親の教育を徹底していく必要がある。50年代、学校で家庭教育をしたこともある。PTAや社会教育の中で親の教育を行っていく必要がある。
- ・小中学校の参観日は公開をしているのか。子育てを卒業した人たちにとって、学校の授業を見たりすることはいいことである。一般公開をしていくことも必要である。
- ・市内の辻辻に小中学校用の掲示板を作ってはどうか。人の集まる場所に確保する。
- ・イキイキKidsを使うのも1つの方法である。
- ・自治会によっては色々取り組みができるのではないか。
- ・地域に子どもを育てる力がなくなってきた。学校側から、地域に対して、こんな事を支援して、手伝って欲しいという発信も必要である。
- ・単なる発信だけでなく、何か1つプラスしていくことがあればOK
- ・アルミ缶の回収などに関しても、保護者や地域への発信を積極的におこなっている。
- ・中学校のクラブの顧問の役割が地域の団体としては大変ありがたい。クラブ活動を通じて地域とつながっていくことが大切である。得意・不得意の分野がそれぞれにあるので、様々な取り組みを通して分かることが大切である。

進行担当

- ・無関心が一番いけないことである。昔のことを言っただけでいいのではなく、姿を取り戻すことが必要である。これから何が出来るか（子どもと）について考えていきたい。いいときに学校関係者や生徒さんから意見を聞くことができた。今後も、地域全体で盛り上がっていくことが必要である。

参加者より

- ・地域に関して昔との比較は簡単にはできない。小さい頃、悪いことをしていたらおてんとう様が見ていると言われた。見ていないようで（親）ばれることが多かった。そのうちに、色々な力を付けて成長していった。
- ・近所づきあいは、面倒に感じることもある。が近所づきあいをどこまでしていくかは子どもに響くと思う。（自分自身）地域で育てられたという感が強い。この先どの様にしていったらいいのか参考になった。
- ・学校週5日制や科学の祭典等は、地域との関係の中で根づいていくものである。週5日制でも、親の中には働いている人もいるから、そのときこそまわりのコミュニティでサポートしていくことが大切である。
- ・学校週5日制で、より忙しい子どもは忙しく、時間のある子は時間を持て余している。塾にスポーツにと・・・。僕は、私は、時間があると言う子たちを支援していく。
- ・教育ボランティアを立ち上げるころまでいった。子どもたちに対して何が出来るかと言う観点からの取り組みであったが、学校は学校で対応できるの声があり、進まなかった。
- ・自分自身は、今、学生であり地域で活動を続けている。小さい頃の自分なら（人前で）話すのが苦手であったが、地域とつながることなどを通して少しずつ変わってきている。
- ・多くの方から保護者として貴重な意見を聞いて感動している。小さなからに閉じこもることのないようにしたい。自分自身の子どもは自分で育てると共に、地域の人々とのつながりも大切なことが分かった。
- ・自分自身は面倒くさがり屋のところがある。でも、参加してそれぞれの人の意見を聞くことは大切である。行政の立場として、行政ができることに取り組んでいく。
- ・親育てが重要な取り組みであり、親のどの様な力が落ちているのか見極める必要がある。子どもをきっかけにいかにそれぞれの役割を再確認し地域の再生を図っていくかが大切である。子どもだけ、大人だけでなく一緒になって参画することが大切であり、子どもの居場所が大人の居場所になる。

進行担当

- ・まとめ及び発表についての確認。

